

# 病院に勤務する看護師長の看護情報についての認識と看護管理上での情報活用の課題

著者	?花 尚美
学位授与機関	滋賀医科大学
学位授与年度	令和2年度
学位授与番号	第248号
発行年	2020-09-09
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10422/00012857">http://hdl.handle.net/10422/00012857</a>

氏 名 崎花 尚美

学 位 の 種 類 修士（看護学）

学 位 記 番 号 修士第 248 号

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第 3 条第 1 項

学 位 授 与 年 月 日 令和 2 年 9 月 9 日

学 位 論 文 題 目 病院に勤務する看護師長の看護情報についての認識と看護管理上での情報活用の課題

審 査 委 員 主査 教授 伊藤 美樹子

副査 教授 佐々木 雅也

副査 准教授 桑田 弘美

## 論文内容要旨

※整理番号	253	(ふりがな) 氏名	さきはな なおみ 崎花 尚美
修士論文題目	病院に勤務する看護師長の看護情報についての認識と 看護管理上での情報活用の課題		
<p>【目的】</p> <p>病院に勤務する看護師長の看護情報についての認識を調査し、看護管理上での情報活用の課題を明確にすることである。</p> <p>【方法】</p> <p>対象者は、近畿2府4県の精神病院、結核病院を除く200床以上の病院の看護師長とし、無記名自記式質問紙による実態調査を実施した。調査の目的、個人情報保護、協力は自由意思であることを文書で説明し、質問紙の回答の郵送をもって同意を得たこととした。</p> <p>情報の認識として情報の知識(23項目)情報のスキル(7項目)コンピュータスキル(39項目)について、5件法で評価した。4以上を知識良好群、3以下を知識不良群に分け、カイ2乗検定、Mann-WhitneyのU検定を行った。看護情報能力に関する良好・不良を従属変数、講義及び研修の有無を独立変数、年齢、性別、基礎学歴を調整変数として多重ロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>【結果】</p> <p>回収数は212名(有効回答率88%)であった。対象者の年齢(平均±標準偏差)は50.2歳±5.9歳、92%が女性であった。看護師長に必要とされる情報及びICTに関する能力に関して、性別(<math>p &lt; 0.01</math>)、最終学歴(<math>p = 0.04</math>)、ICTに関する講義や研修(<math>p &lt; 0.01</math>)と有意な関連を認めた。情報及びICTに関する講義及び研修未受講者を参照水準とした研修者の知識・実践良好調整オッズ比(95%信頼区間)は、年齢を調整した場合(Model 1) 3.07 (1.73-5.44)、Model 1に性別を追加した場合(Model 2) 3.32 (1.84-5.99)、Model 2に基礎学歴を追加した場合(Model 3) 3.32 (1.83-6.01)であった。</p> <p>【考察】</p> <p>看護師長は、医療情報システムの評価や選定する役割を持つ立場であるが、重要な業務分野を支援するスキルとしての情報のスキルが低いことが明らかとなった。電子カルテの普及により、コンピュータスキルの能力は、全員が保有していると考えていたが、実際は、初級レベルの看護師が保有する項目以外は低かった。看護師長は、利用可能な情報を実践に活かす能力は持っているが、データ間の関連性や傾向とパターンに基づいて判断を行うような管理的な情報の知識は低いと考えられる。</p> <p>【総括】</p> <p>本研究では、病院で勤務する看護師長の看護情報の認識を明らかにするために、3つのカテゴリーについて、知識保有状況及び実践について調査した。その結果、看護情報能力について、全てのカテゴリーで、知識保有及び実践の割合が半数以下であり、低いことが明らかとなった。看護情報能力向上のためには、情報学やICTの講義や研修受講が重要である。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1,200字程度)  
2. ※印の欄には記入しないこと。